

津ライスニュース 令和3年産第1報

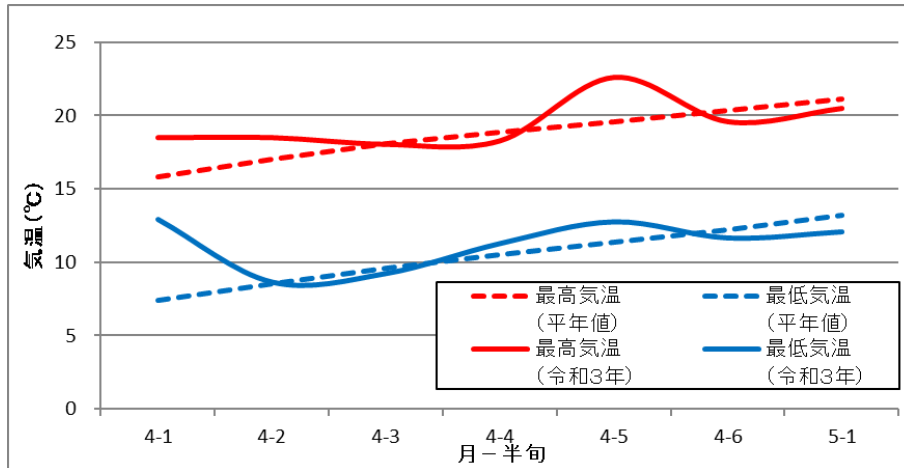
令和3年5月11日

津地域農業改良普及センター 電話:059-223-5103

気象経過

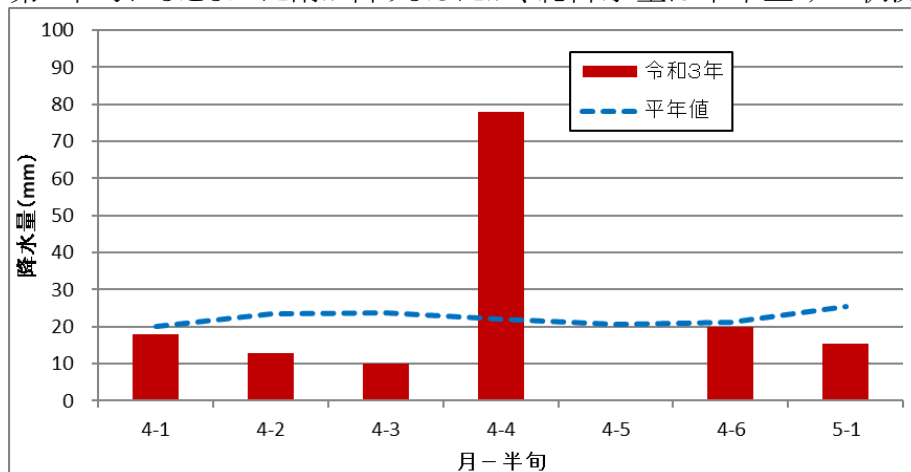
<気温>

4月は平年並み～やや高く気温が経過しました。



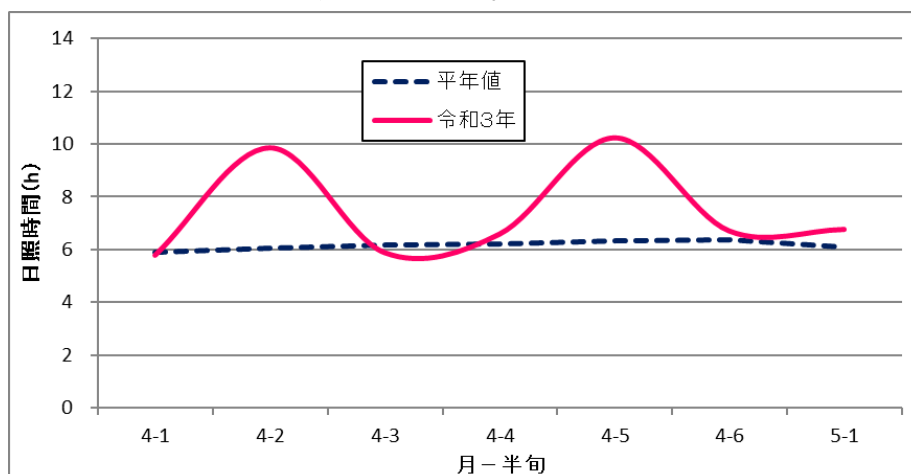
<降水量>

4月第4半旬にまとまった雨が降りましたが、総降水量は平年並みの状況です。



<日照時間>

例年より日照時間は多く推移しています。



生育の概況

育苗期間中は気温が低い日が数日ありましたが、全般に気温はやや高く、苗丈は確保され、根張りは良好でした。田植え作業の中心となる4月第4半旬～5月第1半旬の天候は、周期的に雨が降っており、雨の合間を縫っての作業となりました。

4月下旬には風が強い日があり、一部で植え傷みをしたところが見受けられます。活着まではやや深水、活着後は浅水にして生育の回復を図りましょう。

病害虫の発生状況と対策

<スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)>

令和2年度は令和元年度に続いて発生が多い年でした。令和2年12月から令和3年2月の平均気温が高く、暖冬であったことから、スクミリンゴガイの越冬率が高いと推測されます。

今後、気温の上昇とともにスクミリンゴガイの活動が活発となり、移植後の水稻が被害を受ける可能性が高まりますので、以下のことに注意して管理を行いましょう。

- 1) 薬剤による防除は、貝の活動を確認してから行いましょう。
- 2) 散布適期は、イネの被害が大きい移植後3週間までです。
- 3) 田面の水が深い部分に集まる習性があるため、浅水で管理すると被害が少なくなります。
- 4) 入水口に貝が通れない大きさの目合いの網を張り、水路からの侵入を防ぎましょう。また、貝を捕殺し、卵塊は水面に落としましょう。
- 5) 既に発生が多い水田で使用した農業機械は、作業後に十分洗浄し、未発生水田に貝を持ち込まないように注意しましょう。

<いもち病>

今後、いもち病発生の適温(25～28℃)となる時期を迎えます。現時点では本田での発生は確認されていませんが、今後、雨の日が続き、高温多湿で感染に好適な条件が揃うと、本田でのいもち病発生が懸念されます。感染源を減らすこと、早期発見が大切です。

- ・補植用の苗は早めにはほ場外へ取り除きましょう。
- ・いもち病の初発の早期発見と適期防除に努めましょう。

今後の栽培管理

<中干し>

中干し開始は移植後35日後頃で、葉色が濃く茎数が確保できたほ場(コシヒカリで400本/m²、20本/株程度となった頃)から行います。

中干しは土壌中に空気を入れることによって、根を健全にする効果や、無効分げつの過剰発生を抑制し有効茎歩合を高める効果が期待できます。適切な中干しの励行によって稲の生育を最適に保ちましょう。

5月連休までに植えたところでは、6月に入れば、ほとんどのほ場で中干し作業が行えると思われませんが、中干しの開始時期と強弱については、水稻の生育状況(=茎数の状況)、土壌条件(=粘質土で強め、砂質土で弱め)に合わせて実施してください。梅雨入り前に一度軽く干しておくとともに、排水が悪いところでは溝切りを実施しておくとも水管理が楽になります。